

＝ 病院の理念 ＝
 人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

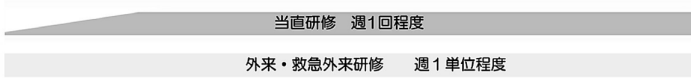
№ 478 2024年 6月号
 [毎月5日発行] [定価1部20円]
 発行 東京勤労者医療会東葛病院 院長 井上 均
 〒270-0153 千葉県流山市中102-1
 TEL 04 (7159) 1011(代)
 FAX 04 (7158) 9202
<http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/>

4人の研修医を迎えました!

東葛の医療 初期研修

初期研修カリキュラム ローテーション例

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合内科(腎臓)												総合内科(消化器)											
救急科												産婦人科											
小児科												地域医療											
麻酔科												外科											
精神科												産科											



当直研修は9月頃から段階的に行います

今年度東葛病院は4名の初期研修医を迎えました。自慢の研修医の紹介とともに、東葛病院がどのような初期研修を行っているか、何を大切にしているかをお話したいと思います。

東葛病院副診療部長・研修担当管理医師 近藤理恵

当院の初期研修プログラムについて

図のように4月の1ヶ月は「オリエンテーション」となっています。これは医師として働くときに関係する皆さんの職種の方々の仕事を實際にすることで、医療現場での多職種協働を理解し、スムーズに臨床現場で働けるようにと30年以上前から行われていた取り組みです。入院された方は事務員、医師、看護

での関連する場所として救急隊、訪問看護ステーション、診療所などもあります。本当にたくさんの部署にお世話になり、ほとんどの職種を体験・見学させてもらいました。この期間があるからこそ顔の見える関係となり仕事もスムーズに行うことができ、相手を思いやった対話ができるようになります。4人の研修医も多くのことを学び、私達にもその学びを伝えてくれます。

1週間のスケジュール

その後5月から半年間「導入期研修」として総合内科研修を行います。この研修では、患者さんのお話から始まり、診察、検査から診断にいたるまでの経過を指導医としっかり学びます。1人で診断を考えていくための足掛かりとなる基礎的な問診方法、診察方法、検査結果の読み方などを学ぶ大切な期間です。週に1回、各人1時間かけて1人の患者さんをプレゼンテーションして学びあう教育回診は今年から近藤自身が担当しています。どうしても検査、画像所見に引っ張られる私達ですが、「どうしてこの人は病院に来られたの?」とか「この人は何に困っているの?」という質問を自



ら行い、患者さんの困ったこと、主訴から必ず始まるように指導しています。私達指導者にとっても毎年この時期は初心に戻るよい機会です。襟を正さなければと思います。

1年目の先生の紹介

辻田典子先生 お子さんを育てながら研修を開始された、パワフルな先生です。ときばきと質問をしてカルテを記載していらっしゃる。担当した患者さんのカルテがかなりたくさんあり、読み込むのに苦労していましたが、徐々に慣れてきています。これからどんどん力をつけてくれると思います。

片倉壮士先生 今年も去年に続き、1人しかいない男性研修医です。去年も男性1人で大丈夫かなと思いましたが、去年の芳賀先生同様とても落ち着いて研修をされています。患者さんのお話をいっぱい聞いてきて、「話が聞けてうれしかったです。」とにこにこされている姿には癒されています。久保先生と似ているという噂もあります。みなさん、間違えないでください。

齋藤直生先生 とても熱心にまじめに取り組んでいます。研修開始直後はとても緊張している様子でしたが、最近は笑顔も見られるようになりました。これからももっと素敵な笑顔を見せていただけたらと思います。



菅原慧先生 笑顔のまぶしい先生です。患者さんに毎日会いに行っていて、ご本人が「治療したくないな。」と考える理由や気持ちを何度

も聞いていました。先生のその優しさや丁寧な対応に接して、患者さんは「少しは医師の言うことをきいてみようかな。」と頑張ってくださったようです。本当に良かった、と指導医も安堵しました。

指導医の紹介

太田実可子先生 みさと健和病院から支援に来ていただいている先生です。当院での指導体制を支えるために手伝っていただいています。近藤(筆者)(50歳)になったところ、はとうとう研修医の先生の2倍の年齢になり(新卒なら25歳くらい)、長男(19歳)の方がどう考えても年齢が近い状態なので、「こんな言い方は不適切なのかも?」「今の話、分かっている?」などの迷いや不安が日々ありますが、太田先生がいつも和やかに感想を言ってくれますので、修正したり安心して取り組めます。みさと健和病院の皆様にも「感謝感謝」です。

東葛病院の研修が大切にしていること

研修の理念に挙げられている通り、「人権を尊重し、無差別・平等の医療を実践する」ことをどうしたら実践できるのか、考えながら研修指導をしています。お金がないので病院を受診することすらためらってしまった方や、理解力の問題で病気の治療になかなか通らない方との出会いを通して、医療機関で待っていても悪化してから来院する患者さんにはアプローチできていないと感じます。また、「チーム医療を理解し、リーダーとして成長する。」と書かれています。医療は本当に医師だけではできないなと感じます。いつも皆さんの職種と助け合い支えあいながら日々の研修を実践しています。医師以外の多職種の方々にも指導してもらい、指導医も研修医も成長できる初期研修期間になるように頑張っています。

日本語は難しいとよく耳にする▼漢字・ひらがな・カタカナの3種類が使われ、中でも漢字の読みは難しい▼例えば生醤油と生ビール、同じ口に入る液体の新鮮さを示すのに、なぜ「生」の読みが違うのか。我々はなぜ「キビール」とは読まないのか。「そう読むものだし、表現方法がたくさんあっていいじゃない」とも思うが、合理的な説明は難しい▼先日、言語の研究についての本を読んだ。



聴診器

「はらはら、はらはら」は、何か落ちてくるものを想起するが、その薄さや大きさの違いを感じられることだろうか▼あまり考えなしに言葉を使っていたが、改めて考えると面白い▼日本語は繊細な表現ができるのだと改めて思う。最近、判で押しつたような浅い表現が気になる。「遺憾に思う」など最たるものだ▼せっかくなら幅広い表現ができる言語なのだから、微に入り細に入り伝わる表現を心がけてほしい。(松)

日本語は難しいとよく耳にする▼漢字・ひらがな・カタカナの3種類が使われ、中でも漢字の読みは難しい▼例えば生醤油と生ビール、同じ口に入る液体の新鮮さを示すのに、なぜ「生」の読みが違うのか。我々はなぜ「キビール」とは読まないのか。「そう読むものだし、表現方法がたくさんあっていいじゃない」とも思うが、合理的な説明は難しい▼先日、言語の研究についての本を読んだ。